

平成30年度第3回大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会 議事要旨

1 日 時：平成30年8月29日（水）午後1時30分～午後3時

2 場 所：大阪市役所 屋上（P1）階 会議室

3 出席者：

【委員】伊藤委員、栗原委員、佐々木委員、菅原委員、谷川委員、山西委員、吉田委員

【大阪市】柏木経済戦略局長、高井経営形態担当課長 ほか

4 議 題：

○ 中期目標・評価の方法について

5 議事要旨

○ 中期目標案について

・局から資料1・2に基づき説明。その後、委員会の意見をいただき、承認された。

○ 評価の方法について

・局から資料3・4に基づき説明し、質疑・審議を行った。続いて局から資料5に基づき説明し、質疑・審議を行い、評価の方法については、次回以降の評価委員会で引き続き検討することとなった。

〔主な意見〕

・従来の事務事業評価とか業績測定型の評価においては、本来目指していくことと測定しているものとの因果関係が見えず、評価疲れや評価の目的化を招くことがある点に留意し、そうならないように評価の仕組みを検討する必要がある。

・アウトプット、アウトカム、インパクトという体系は一つの評価のやり方といえるが、これだけに縛られるのではなく（個別の具体的な目標実現だけにとどまらず）、大きな目標（10年先に目指すもの）に立ち返って、個別の指標を生かしていくことが大事。

・アクションプランには、プロジェクト型と継続型の事業が混在しているが、とりわけ継続型の事業は、定量評価（数値）が非常に難しいため、目標設定には注意が必要。

・継続型の事業でいうと、教育普及や調査研究などは、一朝一夕に成果が出るものではなく、一律に数値化できる事業ではないが、それらを適切に評価していくことが必要。博物館といえば、展覧会の実績評価（観覧者数・収益など）が重視される傾向にあるが、展覧会はほんの一部の事業であるためそれだけに特化せず、それ以外の事業も含めて全体を適切に評価できる仕組みを期待している。

・アクションプランレベルの評価を行うにあたり、年度によっては計画上実施しないアクションプランもあるため、運用しにくくなるのではないかと懸念する。

・指標の設定については、現場をよく知る法人の意見も反映させた形が望ましい。

6 会議資料

- 資料 1 中期目標（案）の修正について
- 資料 2 中期目標（案）
- 資料 3 評価について～行政評価の現状～
- 資料 4 評価の方法について（案）
- 資料 5 中期目標（案）の体系について
- 参考資料 1 中期目標（案）※第 2 回評価委員会資料

7 問い合わせ先

大阪市博物館機構評価委員会事務局
（大阪市経済戦略局文化部文化課）

TEL : 06-6469-5185

FAX : 06-6469-3897

E-mail : ga0022@city.osaka.lg.jp